



横浜市立田奈小学校

平成28年 10月3日

# 学校だより 10月号



みのたなくん

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>

校長 二瓶 光代  
Tel 045-981-0009

## 550のお宝から生まれる学び

校長 二瓶 光代

田奈小学校郷土資料館の名前は、七つの候補に絞られ最終的に「みのたな博物館」に決まりました。8月29日から子ども達の内覧、9月2日保護者の方の内覧、4日リニューアルオープンセレモニー、5日全校でセレモニーのビデオ視聴という流れを経て、6年生は名前を考える役目を担っているという意識を高め、素晴らしい名前を考えてくれました。

さて、ご存じのとおり田奈小学校の子ども達は、保護者の方、地域の方のご協力により豊かな体験を取り入れた学習を行ってきています。たとえば、カイコの飼育、昔の道具調べ、稲作、餅つき、わらの活用などです。子ども達は郷土資料と出合うことで、これまでの学習と資料を結びつけ、新たな学習に取り組み始めています。先日、高学年の子どもから「資料を借りてもいいですか？」と聞かれました。稲作のことで調べたり聞いたりしたことをみんなに説明するとき、農具の実物が必要なのだそうです。また、ある子は家で見つけた本に資料提供者の方の名前があるのを見つけ、その方に田奈の昔の暮らしを聞きに行きました。

みのたな博物館の資料は、550点にも及びます。先日の朝会で、「資料は、長い間活躍してきて今はお年寄り。一番若くても80歳以上、オルガンは、100歳ぐらいです。元気いっぱいのお年寄りもいれば、けがをしている（故障している）のもあります。触れる時は、優しくね。」と話しました。唐箕（もみとわら屑を分ける農具）の後ろ側にももみが出てくるところがあるはず。」とつぶやいた子に「後ろに回って見てみたら。」と声をかけると、「隣の万石（米粒を選別する農具）にぶつかって壊してしまいそうでこわい。」という答えが返ってきました。

たくさん展示されている資料をかき分けて無理やり確かめることにためらいを感じているのです。毛筆で書かれている書物のページを正座してめくっている子もいます。そこには、資料を価値あるものと受け止め大切にしようという態度が見えます。以前、「文化遺産にいたずら書き」という事件が報じられましたが、資料の価値が分かり大切に作る心が育っていれば、そうした心無い行動には至らなかったかもしれません。資料は、お宝です。そして、お宝から生まれる学びは、知識理解だけでなく、生き方まで含まれる学びなのです。

（みのたな博物館は、学校行事や授業などで使用していない時、平日いつでも地域・保護者の方に見学していただけます。）